

無口な夫の
独り言ソプラノ
高城弘子

うちの嫁さん、五年前、町のあちこちで見かけた『第九』と一緒に歌いましょう』というポスターを見て興味を示し、友人と二人で勇んで参加したなあ。

「ドイツ語で歌うねんで！巻き舌やで！素晴らしい先生方で初心者にも丁寧に教えて下さるし、勿体ない位や。しかし、難しい。でも知らない世界やから面白い」と言っとったなあ。

時々「先生方は私のレベルを知らんのかなあ。付いて行かれへん」ともぼやいとったなあ。

そうそう、いずみホールでのレクイエム等の演奏会には、山歩きの仲間を十人程誘って聞きに行きました。

中の一人がクリスチャンで「レクイエムの世界に浸りたいので、長崎の教会巡りをしてみたい」と仕事の合間に出かけましたわ。

あのレクイエムに、いたく感動したんやろね。

五味先生達のお陰で、大成功やと意気揚々としてました。

けど、先日の大阪コミュニティ合唱祭から帰って来た時は、えらい落ち込んでたなあ。

大正フロイデがいいポジションにいてると思っていたのに、他に素晴らしい合唱団が沢山有る、という現実を知ったそうなんですね。

「井の中の蛙やった」と元氣印の嫁がしょんぼりしてました。

やっぱり発声が大事やとか、何やかや言うてます。それに気が付いただけでもええやんか、と慰めてやりました。

買い物に行く時の車中は練習場になり、キイキイ高い声出すし、金曜日は夕食五時でっせ！

そこらへんは迷惑やと思うけど、まあ好きな事に夢中になれるのはええ事や。次はどんな演奏会なさるか、楽しみにしてます。無口な夫の独り言です。

二足の草鞋を履いて

ソプラノ
植田優子

私は『大正区』の住民では無く『東成区』の住民です。勤務する会社が『大正区』

にあり、駅に貼られた団員募集のポスターを見掛けたのをきっかけに、出来て二年目の団に入りしました。

入団した頃は他区からの参加者はとても希少で、知り合いも居ず肩身の狭い思いをしていました。

入団して一年近く過ぎた頃に、西本先生が東成区でも合唱団の指導をされていると知り、そちらの合唱団にも入る事にしました。

同じ先生に教えて頂くので他の団員の方より多く練習出来、自分の為になつていると思つています。

でも、同じ日のステージに二団体から出演するのは結構大変で、先日参加した『大阪コミュニティ合唱祭』でも、舞台裏を汗だくでバタバタと走り回って居ました。

出演順が近かったので、リハーサルにも遅刻してしまい、周りの皆さんにご迷惑をお掛けしてしまいました。

そんな中、逆に皆さんが私のことを気に掛けて下さり、顔は知っていても今迄に話した事が無い方からも話し掛けてもらい、とても嬉しかったです。

一緒に行動出来たのは僅かな時間でしたが、今回は参加者が少なかつたこともあり、和気藹々とした楽屋がとても楽しかったです。打ち上げの余興の為に『河内音頭』や『炭坑節』を一生懸命練習する、そんな姿を見て、この団のチームワークの良さを感じました。

市や府の合唱祭と比べ、衣装を着たまの時間が長くてとても疲れました。

二団体分疲れたとは思いますが、二団体分を楽しめたと思つています。

これからも、自分が楽しむ為に二足の草鞋を履き続けたいので、沢山の方に何かとご迷惑をお掛けすることもありますが、今迄どうり一緒に楽しく、どうぞ宜しくお願い致します。

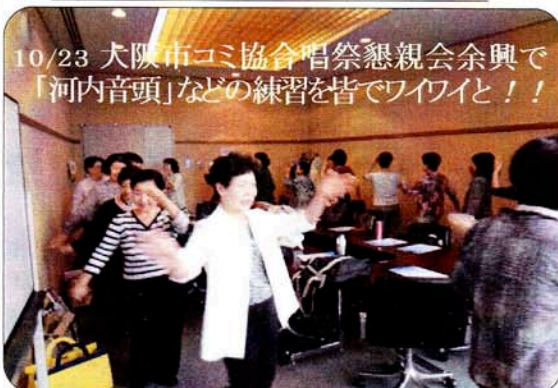
私と合唱

ソプラノ
田中和子

私と合唱の出会いとは三十三年前、大阪城築城四〇〇年一九八三年（昭和五十八年）を記念した「一万人第九」でした。

みんなが一つになったハーモニーに感動し魅せられて、私もあの中に入つて一緒に歌いたいと思いました。

身の程知らずと言われながら二回目から参加し、それから毎年十二月になると



10/23 大阪市コミ協合唱祭懇親会余興で「河内音頭」などの練習を皆でワイワイと！！

暮れる一年を思いながら、「第九」を続けていました。そして、合唱の世界を広げてくれたのが「フロイデ」でした。

大正区で「第九」の合唱が始まると知り、第一回から参加しました。

「フロイデ」では声の出し方から指導して頂き、ジラーレのアクビのように喉を開いてという発声法で、いつの間にか高い声が出しやすくなりました。

歌える曲も増え、五周年記念演奏会での合唱は、心ふるえるものでした。難しいラテン語やドイツ語も前向きに取り組み、美しいハーモニーを目指して、これから頑張りたいと思っています。

皆様に感謝感謝です。